

A synopsis of the air disaster at Nagasaki <sup>(2)</sup>  
9 August 1945.

3C (16)

25

八月九日長崎市空襲災害概要報告書

昭和二十年九月一日

長崎縣

大日本帝國政府

- 目次
- 一、警報發令，狀況
  - 二、敵機，來襲狀況
    - (一) 敵機，侵入及爆擊，狀況
    - (二) 原子爆彈，威力
  - 三、被害狀況
    - (一) 死傷者及行衛不明者數
    - (二) 罹災者數
    - (三) 家屋被害數
    - (四) 工場及施設，被害
    - (五) 學校，被害
  - 四、災害應急對策
    - (一) 醫療救護
    - (二) 戰災者，救恤
    - (三) 各種施設等，應急復舊

謹ンデ八月九日ノ原子爆弾ニ依ル當長崎市ノ被害  
ノ状況迄ニ其ノ救護及復旧ノ概要ニ就テ申上  
マス

### 一、警報發令ノ状況

當日ハ晴天ニテ風モ余リナク先ヅ普通ノ盛  
夏ノ一日トテモ申スベキ日デアリマシタガ連日ノ  
空襲ニ市民ノ緊張ハ相當強ク熱心ナ防空  
活動ニ酷暑モ打忘レル程デアリマシタ

大日本帝國政府

先ヅ七時四十八分ニ警戒警報ガ發令サレ  
次デ今五十分空襲警報ガ發令サレマシタ  
ガ八時三十分ニ至リ空襲警報ガ解除サレ  
マシタノデ市民ノ緊張モ弛ミホツトシタ  
氣分デ居ワタノデアリマス

### 二、敵機ノ来襲状況

①敵機ノ侵入及爆撃ノ状況

B29二機ハ十時五十三分頃熊本市ヨリ西進シ島原半島北部上空ヲ至テ侵入致シマシタガ先導機一機ハ十一時零分頃東北方ヨリ長崎市上空ニ侵入シ北部工場地帯ヲ目標トシテ高度九千米位ヨリ落下傘附物體三個ヲ投下致シマシタ 該落下傘附物體が

大日本帝國政府

空中ヨリ浮流シ下リ約四千米位ニ降下シテ頃後續機ガ先導機ト同一方向ヨリ高度九千米位ニテ侵入シ十一時二分頃市北西部工場地帯ノ中心部ヲ目標トシ原子爆弾一個ヲ投下シ急反轉シテ東方ニ脱去シマシタガ後續機カラ投下致シマシタ原子爆弾ハ落下後約四十秒高度

原子爆弾ノ威力

五百米位ノ空中ニテ落下傘附物体ノ放電作用ニ依リ爆發シタモト推定サレテキマス。  
原子爆弾ノ炸裂ニ際シテハ先ヅ強烈ナ一大閃光カ逆リマシタ、ソレハ恰モ強烈ナマグネシウムヲ燃火イタト同ジ様ナ感シテアタリ一面カ白茶ケテボンマリ霞ンダ

大日本帝國政府

仕舞ヒマシタ、ソシテ爆發ノ中心部デハソレト同時ニ又多少距離ノアル所デハ夫レヨリ瞬時ノ後強烈ナ轟音ト共ニ強烈ナ爆風ト熱氣トガ襲ワラ来タノデアリマス

其ノ威力ヲ被害現場ニ残存スル建物、草木ノ残骸、被害程度ノ濃淡ニ依リ調査

致シマスト次ノ様ニ判断セラレマス

①爆発中心點ヨリ半径一軒ノ圍内ニアル人畜  
ハ強カナル爆壓及熱氣ニ依リ殆ンド即死  
ヲ致シ家及屋其ノ他ノ建物ハ滅茶々々ニ  
倒壊飛散シ且火災ヲ發生シテキマス  
三菱製鋼所ノ頑丈種リナイ鉄骨が筋  
ノ様ニヘシ曲リ鉄筋コンクリート建ノ國民  
學校ノ屋根が折レ下ツテキル狀況ヲ見マ  
スト實ニ想像ヲ絶スルカデアルコトが  
窺ヘレマス

大日本帝國政府

尚草木ハ大少ニ不物幹枝共ニ切斷  
セラレ炎上シタモノガ多イノデアリマス  
②中心點カラ半径一軒以上ニ軒ノ圍内ニ  
アル人畜ハ強カナ爆風及熱氣ニ依リ

一部ハ即死シ大部分ハ重軽傷ヲ負ヒ家  
屋其ノ他ノ建物ハ全壊シ且各所ヨリ  
火災ヲ發生致シマシタ、尚草木ハ一部  
突上枯死致シマシタ

③中心點ヨリ半径ニ科以上四科ノ圍由ニアル  
人畜ハ強カテ爆風ニ伴ヒ窓硝子其  
ノ他ガ飛散シタ爲重軽傷ヲ負ヒ又ハ  
熱氣ニ依リテ火傷シタ者ガ多ク家屋  
其ノ他ノ建物ハ概テ半壊致シマシタ、

大日本帝國政府

(4)中心點ヨリ半径四科以上八科ノ圍由ニアル  
人畜ハ爆風ニ伴フ飛散物ニ依リ多数  
ノ輕傷者(一部重傷)ヲ出シ家屋ハ半  
壊又ハ一部損壊致シマシタ

以上ヲ要約シテ一言ニ申シマスナラバ長崎市



民ハ爆發中心地ノ者ハ勿論端々ニ居住スル者迄齊シク至近彈ヲ受ケタトノ感シヲ受ケ又普通爆發彈ノソレニ相當スル程度ノ被害ヲ全市ニ亘ツテ蒙ツテ申シテ過言デハナイノデアリマス

又後程述ベマヌル様ニ災害ノ最モ甚シイ中心部ハ殆ンド全滅シテ爆發直後暫ク

大日本帝國政府

ノ間ハ殆ンド情報ハ入ラズ比較的被害ノ輕微ナ所ノ者ノミガ至近彈ヲ受ケタトノ漸是ノ下ニ其ノ狀況ヲ申シテ参リマスノデ至近彈デ其ノ程度ノモノナラハ原子爆發ノ威カト云フモノモ案外大ニテ恐レルニ足ラズ防ヲト思ハバ從來ノ方法ヲ防ゲルモノデハ無イカトノ錯覺ヲ吾々ニ

持タシメタノデアリマシタガ、其ノ威カハ  
吾々ノ想像ヲ超ヘタモノデアリマシタ

### 三、被害状況

(一) 死傷者及行衛不明者

何分ニモ被害ノ範圍ガ廣汎デ被害ノ程度  
ガ甚大デアリマシタノデ最初ノ程ハ死傷  
者ノ數ヲ判然ニサカワタ位デアリマスガ

### 大日本帝國政府

九月一日迄ニ判明シタ所ニ依リマスト、

(1) 死者(複視者ノモ) 一、九、七、四、三、名

(2) 行衛不明者 一、九、二、七、名

(3) 重軽傷者 四〇、九、九、三、名

デアリマスガ爆發ノ中心部ハ殆んど全滅  
ノ状態デアリマシタ町由會長、隣組長  
ノ所由幹部モ大部分死亡シ又行衛不明

トナリマシタ爲正確ナ死傷者数ヲ調査  
スルフトハ困難デアリマスガ先ア死者  
約ニ萬五六千人ハ下ラナイ見込デアリ  
マシタ目下物資配給、人口調査表及戦  
災地生存者等ニ付詳細ナ調査ヲ行フ  
テ居リマス

大日本帝國政府

中デアリマスガ内臓疾患ヲ起シ又ハ  
破傷風ノ爲死亡スル者等相者数ニ達  
シ被害當時輕傷ノ患者又ハ殆んど外  
傷モ無イモノ等ニシテ時日ノ経過ニ從ヒ  
綠色下痢便ヲ排泄シ飲食困難ト  
ナリ嘔吐ヲ催シ死亡スル者モアリマシタ  
其ノ死亡率ハ豫想以上ニ高ク重傷者ノ

三分ノ二以上ハ死亡スルモノト認めラレマス

罹災者ハ八月二十六日現在ニシテ

二一、一七四世帯 八九、七八〇名

デアリマス

③家屋被害ハ

①全焼、全壊 一四、一四六戸(全焼二、四九四戸)

②半焼、半壊 五、四四一戸

大日本帝國政府

③一部損壊 全市全家屋

デアリマシテ其ノ主タル被害地域ハ市ノ

北部、工場地帯デアリマス

面積ハ市域ノ約三分ノ一デアリマシテ

三菱重工業 長崎兵器製作所

三菱製鋼 長崎製鋼所

等ノ重要工場が潰滅ニ似シマシタリテ

初トシテ中小工場、重要諸施設、學校、  
病院等ノ被害甚大デアリマス

四工場及施設ノ被害

一重要工場

三菱長崎兵器製作所、今茨城町工場

三菱長崎製鋼所、三菱長崎造船所、山口工場

今幸町工場、今大橋工場等、重要軍需

大日本帝國政府

工場ハ全建物全壊致シマシテ機械諸

施設ハ全面的ニ破壊セラレテ使用不能ト

ナリ又當時作業中ノ従業員ニ多数

ノ死傷者ヲ出シマシテ之ガ復旧ハ極ナク

困難デアリマスト共ニ戦局ノ急轉ニ依

リマシテ生産切替又ハ生産停止ノ必要

ガ生ジマシタ爲其ノ復旧ハ未着手ノ状態

デアリマス

(2) 協力工場、其、他、中、小、工、場

軍需工場、協力工場、其、他、中、小、工、場、ノ、被、害、モ  
亦、甚、大、デアリマシテ、全、壊、又、ハ、全、焼、シ、タル、モ、  
八、五、工、場、ア、リ、マ、シ、テ、何、レ、モ、機、械、其、他、諸  
施設、ハ、破、壊、又、ハ、焼、失、シ、且、ッ、従、業、員、ノ、死  
傷、者、モ、多、数、ニ、上、リ、其、ノ、復、旧、乃、至、生、産

大日本帝國政府

切替ハ困難ナ狀況デアリマス

(3) 重要供給施設

九州配電機座変電所、同浦上変電所  
会社、久保変電所、会社旭町發電所  
西部瓦斯長崎支店、本八木代町工場  
及大橋工場ハ何レモ全燒致シマシタ、  
主要水道幹線、下川橋、御船町、城山橋

及全焼地域各水道管ハ破壊セラレマシタ  
市内ノ一部ハ送水不能トナリマシタ

④ 電信電話施設

被害地域ハ全面的ニ焼失又ハ破壊セラレ市内  
田線ノ約九〇%ハ通話不能トナリマシタ

⑤ 交通施設

長崎駅及浦上駅廳舎ハ焼失シ線路ハ大橋

大日本帝國政府

鉄橋附近ヨリ長崎駅迄ノ間部分的ニ損壞  
シ又ハ電柱等ノ倒壞ニ依リマシテ運行不  
能トナリマシタ

長崎電気軌道ハ大橋終點事務所及車  
庫全焼シ又船藏町変電所及電車  
十六輛ヲ焼失シ軌道ノ三分一ノ被害ガ  
アリマシテ電車ノ運行ハ不能トナリマシタ

五、學校ノ被害

被彈中心部ノ學校ハ建造物ノ被害最又  
大デアリマシテ全壊全焼致シマシタモノハ  
長崎医科大学ヲ始メト致シマシテ  
中等學校六、國民學校五ニ及ン  
テ居リマス

尚該地域ハ工場地帯デアリマシテ動員中  
ノ學徒モ多ク教職員、生徒ノ死傷モ多  
數ニ上ラテ居リマス

大日本帝國政府

中心部以外ニ於キマシテモ爆風ニ依リマシテ  
校舎、硝子窓、屋根等ハ相当程度破  
損シヤクモノハナク授業開始ニ又或程度  
ノ支障ヲ来ス状態デアリマスハ九月十五日ヨリ  
不敵取授業開始ノ措置ヲ講ジテ居リマス



四、災害應急対策

1. 醫療救護

本縣ニ於ケル醫療救護、主勸的改創ヲ爲ス  
ベキ長崎醫科大學及附屬病院ハ災害ニ  
罹リ醫師並ニ看護婦モ悉ク罹災ニ  
罹リ死亡傷者ヲ出シタノミナラス市中ノ  
開業醫又亦相當致死傷致シタリ爲

大日本帝國政府

市田ノ醫療救護機關ノミニテハ午ノ施シ

ヤウノナキ狀況ニアリマシタリテ九州地方總  
監府ニ對シ救護班ノ應援ヲ求ルルト共ニ  
佐世保海軍病院、久留米陸軍病院  
西部軍管區救護隊等、陸軍<sup>海</sup>救護班及  
佐賀福岡熊本各縣ノ救護隊ノ應援出勤  
ヲ要請シ更ニ縣下各町村ヨリ應援救護

隊ヲ出勤セシメテ負傷者ノ救護治療ニ當リ  
負傷者ハ主トシテ市内ニ残存スル救護所  
國民学校等ニ收容スルト共ニ被災當日ハ  
負傷者ヲ臨時列車ニ收容シテ縣下蘇  
早市、大村市、川棚町、早岐町等ニ搬  
送シテ治療救護ノ萬全ヲ期シタノデアリ  
スガ前述ノ通り負傷者ノ大部分ハ經

大日本帝國政府

過使スレテ良好ナラス 又時日ノ経過ト  
共ニ却テ容態悪化シ死亡者漸増ノ傾  
向ニアリマスコトハ洵ニ遺憾ニ堪ヘマセン

○被災者ノ救護

○市内、大半ハ罹災致シマシテ既定計劃ニ依  
ル市内ノ非常炊出ノ實施ハ困難トナリ  
マシタノデ近接ノ市町村カラ炊出應援ヲ

度ケルト共ニ「トラック」乗用車等ヲ重點的ニ  
配車致シマシテ罹災者ニ對スル食糧ノ配  
給ニ努メマシタガ 何分ニテ罹災者ハ最  
初市周辺ノ山林ヤ相當遠隔ノ廣大塚  
等ニ一時避難シ其ノ上災害中心部ノ  
警防團員、町田會長、隣組長等ノ  
幹部ハ殆ド死傷致シマシテ罹災者

大日本帝國政府

個々ニ對スル食糧配給ニハ歎カラズ困難ヲ  
感シマシタガ 警察官、輸送挺身隊及應  
援警防團員等ノ献身的努力ニ依リマ  
シテ九月ヨリ十六日迄ノ間ニ毎日平均  
八、五〇〇食 合計六五〇、二五〇食ヲ炊出シ  
テ罹災者ノ救恤ニ努メマシタ  
尚罹災者中ニハ綠故ヲ辿リマシテ市外ニ

之運々者モ多クアリマシタノデ直ニ罹災證明  
書ヲ發給シ輸送ニ関シテハ優先列車  
無賃列車等 鉄道當局ノ適切ナ措置  
ニ依リマシテ便宜ヲ供與シ特ニ隣接所村  
ニハ一時ニ多數ノ罹災者カ救到致シマシタ  
ノデヤカ受入及生荷必需物資ノ給與ニ  
関シマシタ又 必要ナ措置ヲ講ジ其ノ

大日本帝國政府

救恤接護ニ萬全ヲ期シタノテアリヌ  
②行衛不明者ノ捜査ニ付マシテハ死傷者  
名簿ヲ作成シマシタ 罹災者、遺族等ノ  
閱覽ニ供シマシタ 其ノ捜査發見ニ便宜  
ヲ供與致シマシタ

③ 罹災孤兒ニ付マシテハ當初市ニ於テ  
其ノ世話ヲ致シテ居リマシタカ親戚縁者

ノ引取ツタ者以外適當ナ社會事業團體  
ニ引取ラシテ居リマス

(4) 尙罹災者對シマシテハ「マツサ」  
「ロソク」  
「下駄」  
「衣料等」  
生活必需品ヲ配給シマスト共ニ  
不取取戰災接護會ヨリ弔慰金見舞  
金等ヲ給與致シマシタガ  
更ニ正確ナ  
調査ヲ俟ツテ衣類、毛布、履具、鍋

大日本帝國政府

倉等ノ配給法ニ戰時災害保護法ニ依  
ル接護等ヲ準備致シテ居リマス  
又罹災者並ニ一級市民ノ住居ニ関シニ  
テハ市内ニハ完全ナ家屋ハ皆無ノ實  
情デアリマシテ  
其ノ應急復旧ハ焦眉  
ノ急務デアリマス  
八月十九日ノ縣勢  
報國會復旧工事建設本部ヲ設置

ニ縣内ノ大工、左官計三五。名ヲ初員改  
シマシテ一應雨露ヲ凌ケニ足ル程度ノ  
應急復旧ノ措置ヲ講ジテ序々カ  
相俟ツテ被災者ヲ緣故知己ノ下ニ赴カ  
シテ一應安定セシムル殊、薪炭中テアリ  
マズ

四 各種施設等ノ應急復旧

大日本帝國政府

條件ニ関シマシテハ、八月十日及十二日、二回

ニ亘リ關係重要機關ノ長ヲ集メマシテ  
緊急対策委員會ヲ開催シ復旧計劃、  
大綱ヲ定ムルト共ニ爾後臨時關係者  
ノ連絡會議ヲ開キ縣ニ於テ資材勞力  
輸送等ノ協力ヲ爲シ復旧作業ノ促進  
ヲ圖フコトヲ期ス

又縣に於てハコトハ毎日一回部課長會議  
ヲ開催セラる日ノ復旧作業ノ進捗状況  
ヲ検討致シマシラ 更ニ協力能勢ヲ  
決定シ逐次之ヲ實行シツ、アリマス  
甚、復旧状況ヲ申上ラルト

ハ電氣施設ハ市由各所共被害ヲ蒙リ  
市由全線ニ對スル送電ハ不可能トナリマシ

大日本帝國政府

夕ガ災害翌日ノ十日ニハ江川電氣所  
ヨリ市ノ南部方面ニ送電ヲ開始シ

十日市由中央部方面ノ送電ヲ完了シ  
十四日ニ至テ是被害地ヲ除キ市由一線ハ  
ノ送電ヲ概テ完了致シマシタガ燒失地  
域以外ノ地域ニ於ケル引込線ノ復旧作業  
ハ二十一日迄ニ約九七%ヲ完了致シマシタ

④瓦斯施設ハ製造工場全焼ノ爲未カ復旧ノ  
見込立カ公供給不能ノ状態デアリマス。

③鉄道施設ノ被害ニ對シマシテハ災害後直ニ  
復旧ニ着手シ長崎—道ノ尾間ハ八月  
廿二日ニ列車ノ運行ヲ開始シ又今日長崎駅  
補上駅ハ假事務所ヲ開設シ以後徐  
行ニ依リ平常通り列車ノ運轉ヲ爲シ

大日本帝國政府

ワ、アイリマスガ駅構内施設及要補修

線路ノ復旧作業ハ尙繼續中デアリマス。

④長崎電氣軌道ハ目下変電所ノ復旧並ニ  
軌道ノ清掃復旧作業ニ努メテ居ラス  
ガ変電所ノ復旧ニ付テハ確タハ見込ナ  
シテ兼ネマスガ九月末日迄ニハ電車ノ  
運行ヲ開始シ得ル様目下努力中デアリマス。



の電信電話施設ハ八月九日十時<sup>十五</sup>二軍<sup>五</sup>及  
主要官公衙九ヶ所ノ通話カ復旧致シ  
次デ八月三十日現在ニテ重要加入者  
五五九個所ノ通話カ可能トナリマシタカ市  
内通信電話線ハ未ダ全面的ニ開  
通致シテ居リマセ又

尚八月十五日福岡方面トノ連絡ハ可能トナ

大日本帝國政府

リ縣田郡部及離島方面トノ連絡モ  
大体ニ於テ大シタ支障ヲ感シナイ程度  
ニ復旧致シテ居リマス

以上災害及放蕩復旧ノ概要ヲ簡單ニ  
御説明申上げマシタガ當時ヲ回想致シマシテ  
今更乍ラ其ノ被害ノ甚大ナニ警覺カザルヲ  
得ナイノデアリマス殊ニ死傷者ノ數カ普通ノ

爆彈燒夷彈攻撃トハ比較ニナラヌ程多數  
デアリ且輕傷者デモ爆發發ノ中心地ニ居  
テ強ク其ノ影響ヲ受ケタ者ハ續々倒レ  
テ行ク狀況デアリス

米國側ニ於キマシキハ其ノ影響ノ持續性  
ニ関シマシテ種々宣傳放送ヲ行ツテ本報  
デアリマスガ長崎縣ト致シマシキハ現在

大日本帝國政府

ノ処夫レ程迄憂慮セネバナラヌモトモ考  
ヘテハオナイノデアリマス

然レ乍ラ事ハ民生ニ関スル重大ナル問題デ  
アリマスカラ輕率ナ態度ヲ拂シマシテ  
九大並ニ陸海軍関係者ニ依囑致シマシテ  
周到ナ研究ヲ致シテ居リマスカラ其ノ結果  
ヲ俟ツテ善處致シ度クト存スル次第デアリス

八月九日長崎市空襲被害參考資料

昭和三十年九月一日

長 崎 縣

大日本帝國政府

目次

- 一、重要建築物被害狀況調
- 二、空襲死者及行衛不明者調
- 三、戰災患者收容並治療狀況調
- 四、應援救護隊出動狀況調
- 五、空襲罹災者現況調
- 六、重要工場及施設被害調
- 七、學校被害狀況調
- 八、農作物被害調
- 九、原子爆彈威力調
- 十、原子爆彈之人體及小動物影響ニ関スル臨床的所見

大日本帝國政府

一 主要建築物被害狀況調

(一) 官公署

被害程度	名	稱	合上所在地
全燒	長崎縣廳	廳	長崎市外浦町
"	長崎地方裁判所	合檢事局	" 万歳町
"	長崎區裁判所	合檢事局	" "
"	元長崎控訴院	院	" "
"	浦上刑務支所	所	" 岡町
"	長崎市水道課	課	" 袋町
"	長崎市水道上	所	" 台馬町
"	本博多郵便局	局	" 本博多町
"	浦上郵便局	局	" 岩川町
"	煙草專賣局	出張所	" 大黒町

大日本帝國政府

被害程度	名	稱	合上所在地
全燒	長崎醫科大學	大學	長崎市坂本町
"	長崎醫學專門學校	校	" "
"	長崎師範學校	校	" 昭和町
"	縣立長崎工業學校	校	" 上野町
"	瓊浦中學校	校	" 城山町
全燒	市立商業學校	校	" "
"	私立鎮西中學校	校	" 竹久保町
"	私立三菱青年工業學校	校	" 岩川町
"	私立純心實踐女學校	校	" 大橋町
"	市立女子商業學校	校	" 新町
"	西坂國民學校	校	" 西坂町

全燒	"	"	"	全燒	全燒	被害程度	(四)重要工場	第	掖	"	"	全燒	"	"	全燒	被害程度	(三)病院	"	全	全	半	"	"	"	全燒
"	"	"	三菱長崎造船所	"	三菱長崎兵器製作所	三菱長崎結核療養所	名	一	濟	衛生	長崎	市五長崎傳染病院	三菱病院	三菱病院	三菱病院	長崎医科大学附屬病院	稱	縣	縣	朝	稻	洲	城	山	錢
竹久保製材工場	浜口町工場	大橋工場	幸町工場	鋼	茂里町工場	院	稱	病	病	試驗	院	院	院	院	院	院	稱	學	首	國	國	國	國	國	國
竹久保	浜口町	大橋町	幸町	"	茂里町	院	稱	本原町	梳島町	"	"	長崎市竹久保町	長崎市坂本町	茂里町	船津町	長崎市坂本町	稱	學	學	學	學	學	學	學	學
																									長崎市錢座町
																									橋口町
																									城山町
																									竹久保町
																									平赤屋
																									稻佐町
																									山里町
																									"

大日本帝國政府

大日本帝國政府																			
全燒	"	"	"	全燒	全燒	被害程度	(四) 重要工場	"	"	全燒	(三) 病院	"	全燒	"	"	"	"	"	全燒
"	"	"	三菱長崎造船所	三菱長崎製鋼所	三菱長崎兵器製作所	名	第一病院	掖濟會病院	衛生試驗所	市立長崎傳染病院	名	縣	朝日	稻佐	山	山	山	錢	錢
竹久保製材工場	浜口町工場	大橋工場	幸町工場	茂里町工場	大橋工場	稱				長崎医科大学附屬病院	稱	聾盲學校	國民學校	國民學校	國民學校	國民學校	國民學校	國民學校	國民學校
"	"	"	"	"	長崎市大橋町					長崎市坂本町		"	"	"	"	"	"	"	長崎市錢座町
			幸町	茂里町	長崎市大橋町		本原町	梳島町	"	長崎市竹久保町		長崎市坂本町	茂里町	稻津町					橋口町
					長崎市竹久保町										平奈原	稲佐町	竹久保町	城山町	

全	全	全	全	全	全	全	全	全	半
燒	燒	燒	燒	燒	燒	燒	燒	燒	壞
護國神社	縣社	縣社	國寶福濟寺	本蓮寺	浦上天主堂	中町天主堂	中町天主堂	中町天主堂	三菱電氣製作所 平尾屋工場
稱	名	名	名	名	名	名	名	名	鐵工場所
稱	稱	稱	稱	稱	稱	稱	稱	稱	工場
長崎市城山町	長崎市長崎支店	長崎市長崎支店	長崎市長崎支店	長崎市長崎支店	長崎市長崎支店	長崎市長崎支店	長崎市長崎支店	長崎市長崎支店	長崎市本尾町
竹久保町	坂本町	坂本町	下籠後町	西山町	本尾町	西中町	西中町	西中町	平尾屋町

大日本帝國政府

(六)其他重要施設		被害程度	名稱	今上所在地
一部損壞	九州配電株式會社	長崎支店	長崎市五島町	長崎市五島町
全燒	鐵座變電所	鐵座變電所	鐵座町	鐵座町
"	竹久保變電所	竹久保變電所	竹久保町	竹久保町
"	浦上變電所	浦上變電所	"	"
"	旭町變電所	旭町變電所	旭町	旭町
"	西部瓦斯長崎營業所	營業所	八千代町	八千代町
全壞	市營火葬場	場	竹久保町	竹久保町



二、空襲死者及行衛不明者調（九月一日現在）

警察署別	死者	行衛不明者	計	備考
長崎警察署	一六、三九〇	七九一	一七、一八一	
梅崎	一、二六	一、二九	二、五五	
稲佐	五、〇三四	一、〇〇七	六、〇四一	
長崎水上	三四		三四	
長崎市外	一、七七五		一、七七五	長崎市外救護所ニ於テ死セシモノ
計	二三、三五九	一、九二七	二五、二八六	

備考

一、被害中心部タル長崎署管内鉄座町以北及稲佐警察署管内竹久保町城山町ノ總人口ハ四〇、四九五名ナリ

二、令地帯ニハ長大瓊浦中學校、鎮西中學校、三菱兵器、三菱製鋼等ニ於テ中心部外居住者ガ死セシ居ル為中心部ニ於テハ總人口ノ概ネ半數死セシ居レリ

大日本帝國政府

三、死者ニ三、三五九名ノ内檢視済ノ眞數ハ一九、七四三名ニシテ他ハ戰災地ノ生存者ニ付調査シタル見込數ナリ 尚行衛不明者一、九二七名ハ身寄ノ者ヨリ行衛不明トシテ届出デアリタルモノナリ

三、戰災患者收容並治療狀況調 (九月一日現在)																									
患者別																									
救護所別																									
治療患者數																									
現在入院患者數																									
死亡者數																									
退所者數																									
備 考																									
新興善國國民學校	長崎經濟專門學校	天主堂第一病院	伊良林國民學校	高木病院	勝山國民學校	大浦救護所	唐屋國民學校	日赤長崎支部	長崎區大	茂里町製鋼器	大橋町兵學務	山里國民學校	城山假救護所	戸町救護所	茂不町	田上養生院	時津村	長興村	諫早市	大村市	其他(縣內各地)	海軍大村病院	閑野病院	諫早分院	大村共病
二五〇	一六〇	二二四	一一九	一四六	三五〇	二六五	一六五	二〇八	二五〇	二八〇	三六〇	八〇〇	一九〇	二一〇	三六〇	三五〇	一七五	九八四	二〇〇	一三五	二七四	一七六	二二一	九二二	
二三〇	一六〇	七〇	二九〇	四六五	五〇〇	六五〇	六五〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四〇	〇	〇	三〇	〇	〇	一五三	二八二	二四	一九〇	二	
二五六	一五四	二五〇	二六六	六四	二四三	一七	一四	一	一	一	二四八	一四二	四	一	二	三	〇	三	〇	一五三	一五	二四	一五六	八	
八三	七〇																			三三三	三八	一〇八	一七五	八二	

大日本帝國政府

海軍	川	應	佐賀縣	行衛	計
川	應	佐賀縣	行衛	計	
共病	共病	救護隊	不明		
二四五	二四五	四四二	五六	四〇九九二	
四九	二一	二九三		一三八一	
五四	二六	一三七	一九二七	三〇二〇三	
一四二	一八	二二		一六五三	

大日本帝國政府

四、應援救護隊出動狀況調

月日	應援救護機關名稱	應援人員名	備考
八月九日	諫早海軍病院	五〇名	八月十一日飯院又
	大村海軍病院	三五	八月十日迄通勤又
	諫早市医師會	一〇	八月十一日飯諫又
	小浜町救護班	六	八月十一日飯町又
八月十日	久留米陸軍病院	三五	八月十八日飯隊又
八月十一日	佐賀縣醫師會	二八	八月十三日飯縣又
	島原市醫師會	七	八月十三日飯島又
八月十二日	大村海軍救護班	三五	八月九日出動セル班ト替代又
	針尾海兵團警備隊	二六一	八月十八日飯隊又
	大村海軍救護班	三八	前日出動班ト替日又
	有家町救護班	七	八月十四日飯町又
	神代村救護班	三	八月十四日飯村又
大日本帝國政府			
八月十三日	口津所救護班	六	八月十五日飯町又
	有家町救護班	七	八月十五日飯町又
	大村海軍救護班	二八	前日出動セル班ト替日又
八月十四日	矢上村女子義勇隊	三〇	即日飯村又
	佐賀縣救護班武雄班	一〇	八月十六日飯縣又
	九大醫學部救護隊	二八	八月二十日飯學又
八月十五日	矢上村女子義勇隊	三〇	即日飯村又
	日見村女子義勇隊	二七	〃
	西部軍防疫班	七	八月十八日飯隊又
	日本赤十字社看護班	三四	〃
八月十六日	有家町救護班	九	八月十八日飯町又
	佐世保鎮守府救護隊	一一	〃
	島原市救護班	七	八月十八日飯島又
八月十七日	矢上村女子義勇隊	三三	即日飯村又

計	熊本 医 大	五〇	八月二十日 飯野 又
	西部軍政 護隊	三五〇	八月十日 出動 七九部隊 代替 又
	針尾海兵團 護隊	二七六	八月十一日 出動 七九部隊 代替 又
出動延人員		一四五九名	

大日本帝國政府

五 空襲罹災者現況調 (九月一日現在)

罹災者總數

八九七八〇名

内 譯

- 一 縣外立退者 一一、八九四名
- 二 市外(縣内)立退者 二〇、三九九名
- 三 市内縁故知己方居住者 二八、九八〇名
- 四 市内半壊家屋補修居住者 二三、四九八名
- 五 市内燒跡(假小屋建設)居住者 五〇、〇九名

大日本帝國政府

二九戶 二五、〇〇〇キロワット 損壞燒失

配電線 亘長六〇キロ (延長四〇〇キロ)

燒失切斷

電柱 一五〇本 変圧器四八〇機 燒失

送電線 長崎、錢座、浦上、竹久保、飽浦各分岐

送電線中斷線一五〇箇所、鉄塔(鉄柱)約五〇本倒壞

(2) 人員被害

大日本帝國政府

當日前面空襲ニ於テ蒙リタル長崎巨大製鋼所ニ於テ

復旧作業ニ從事中、全社従業員

全社従業員 死者 二一名 重傷 一〇名

九州電業事會社 死者 一五名 重傷 一名

學徒 死者 六名 重傷 二名

五島部隊(陸軍)死者 三名 重傷 四名

計 死者 四五名 重傷 一七名

六、重要工場及施設被害状況調

一、重要工場被害状況

三菱兵器大橋工場

人員被害

實働有効人員

被害當日、就労見込数

右、中人員損傷

約八、〇〇〇名

約七、五〇〇名

大日本帝國政府

死者

五〇〇名

重傷者

六〇〇名

輕傷者

五、〇〇〇名乃至六、〇〇〇名

(2) 工場施設、約六〇%ハ既ニ近接ノ山林内地下工場ニ移設

完了シ居リタル房被害ナク残四〇%ノ工場施設ハ全壞

シ一部燒燬セルモ機械類ハ八〇%乃至九〇%程度、

再使用可能ナル見込



③三菱兵器岩里町工場

人員被害

實働有効人員

約一八〇〇名

被害當日就労数

一七五〇名

右ノ中

死者

一四八名

重傷者

九〇名

大日本帝國政府

輕傷者

二〇〇名

②工場施設ノ被害

工場全壊全燒セル爲復出不可能ナリ

③三菱長崎製鋼所

人員被害

實働有効人員

三四〇〇名

被害當日就労数

二五〇〇名

右ノ中

死者

二四二名

重傷者

一五〇名

輕傷者

一五〇〇名乃至二〇〇〇名

工場施設被害

工場全壊セルモノ一部燒燬ニ居リテ機械類七〇%復旧

可能ナリ

大日本帝國政府

四 三菱長崎造船所幸町工場

人員眞被害

實働有効人員

一、一七〇名

被害當日、就労數

一、一六名

右ノ中

死者

四三名

重傷者

四六名

輕傷者

二〇〇名

②工場施設被害

工場全壊の一部焼燬セルが機械類約三〇%使用可能

ノ見込

⑤三菱長崎造船所浜口工場

ハ人員被害

實働有効人員

二七四名

大日本帝國政府

被害當日就勞人員

一六八名

右ノ中

死者

一三四名

重傷者

三四名

②工場施設被害

工場全壊全焼之機械類全面的ニ再使用不可能ノ見込

⑥三菱長崎造船所大橋工場

人員被害

實働有効人員

四六〇名

被害當日、就労人員

二五〇名

死者

一五〇名

重傷者

一〇〇名

(2) 工場施設被害

工場全壊全燒之機械類、全面的に再使用不可能見込

大日本帝國政府

(3) 三菱長崎造船所製材工場

人員被害

實働有効人員

一三二名

被害當日、就労人員

八五名

死者

一名

重傷者

八名

(2) 工場施設被害

工場全壊全焼之機械類ハ全面的ニ再使用不可能ノ見込

ハ三菱長崎造船所 ⑤工場

ハ人員被害

實働有効人員

五一五名

被害當日就労人員

三三五名

死者

二〇〇名

重傷者

一三〇名

大日本帝國政府

ハ工場施設被害

工場施設ノ三分程度倒壊焼燬セルが機械類ハ三分ノ二

程度再使用可能ノ見込

二、重要供給施設

九州配電株式会社長崎支店

施設被害

山錢座変電所

全壊

浦上変電所

全壊

竹久保変電所

半壊

旭町長崎糸電所

全壊後一部焼失

大日本帝國政府

飽浦変電所

半壊

(四) 動力関係

電燈需要戸数

一八、〇〇〇戸 一一、〇〇〇燈 損壊焼失

小動力(五〇キロ以下)

三〇〇戸 一、三五〇キロワット 損壊焼失

大動力(五〇キロ以上)

二九戶 二五、〇〇〇キロワット 損壞燒失

配電線 巨長六〇キロ (延長四〇〇キロ)

燒失切斷

電柱 一五〇〇本 變壓器四八〇機 燒失

送電線 長崎、錢座、浦上、竹之保、飽浦各分岐

送電線 中斷線一五〇箇所、鉄塔(鉄柱)約五〇本倒壞

(2) 人員被害

大日本帝國政府

當日前面空襲ニ於テ蒙リタル長崎巨大製鋼所ニ於テ

復旧作業ニ從事中、全社従業員

全社従業員 死者 二一名 重傷 一〇名

九州電氣事會社 死者 一五名 重傷 一名

學徒 死者 六名 重傷 二名

五島部隊(陸軍)死者 三名 重傷 四名

計 死者 四五名 重傷 一七名

(3) 損害見積額

(4) 糸電所

七〇萬円

配送電線

六五萬円

計

一三五萬円

(4) 二十七日向島江川糸電所より市内一般へ送電ヲ

完了シ目下市内復旧後ノ補修之事ニ着手シ本月

中旬頃迄復舊完了見込

(5) 西部瓦斯長崎支店

大日本帝國政府

八千代町製造工場

製造工場全焼シ施設機械類中タンクニ個ノ損壞

瓦斯釜生爐ニ亀裂ヲ生シ居リテ供給本管ニ概不異

状ナキモ供給管(四千戸)ヲ燒失損壞セル爲應急復

舊ニ四月ヲ要スル見込ニテ當分供給不可能ナリ

(6) 大橋製造工場

工場施設概不九〇%完成シ瓦斯製造中ナリシガ瓦斯



合計	青年學校	國民學校	中等學校	學校種別		職員
				死	傷	
120	1	57	62	7	死	職員 死傷
4	不詳	不詳	4	不詳	傷	
27	不詳	20	7	傷	重	
128	5	90	33	傷	輕	
279	6	167	106	計		
522	不詳	不詳	522	7	死	生徒 死傷
1,173	不詳	不詳	1,173	明	不詳	
680	不詳	不詳	680	傷	員	
2,375			2,375	計		
11		5	6	燒	全	建物 被害
2	1		1	壞	全	
1	1			壞	半	
34	2	22	10	微	輕	
48	4	27	17	計		
50	4	27	19	數	校	
				備	考	

七. 學校被害狀況調

大日本帝國政府

タンク爆発セル為全壞 復舊不可能ナリ 損害額  
三百萬円

八、農作物被害狀況調

種類	被害程度			合上面積	備考
	八割以上	五割以上	三割以上		
水稻	三	二	六	三九町	
計	三	二	六	三七町	
甘藷	八	一	三	六八町	
計	八	一	三	一八町	
蔬菜	八	三	一	三五町	
計	八	三	一	二〇町	
合計	八	五	一	六五町	
總計	三	一	三	一〇町	

大日本帝國政府

農家燒失家屋  
 〃 倒壞家屋  
 計

七五〇戶  
 三五〇戶  
 一〇〇戶

九 原子爆弾ノ威力調(被害直後取敢ヘズ調査シタルモノ)

一 長崎市ニ投下セル新型爆弾炸裂ノ中心点

松山町、駒場所ノ上空ト推定サル

二 中心点ヨリ半径五〇〇米ノ圈内威力

一 中心部ト推定サル場所附近ノ電柱及樹木ノ倒壊及傾斜シテ

二 同圈内ノ民家ハ粉碎サレテ居ル

三 同圈内ニ於テハ屋内屋外共ニ生存セルモノヲ認めズ

大日本帝國政府

四 同圈内ノ屋内待避壕ノ状況不明ナルモ屋外待避壕(掩蓋)

及極メテ不完全ト認めラル、横穴式防空壕ノ崩壊セルモノナシ

五) コンクリート道路ハ数ヶ所亀裂ヲ生シ居レリ

六) 鐵筋電柱、樹木ハ中心点ヨリ各外方ニ向ヒ放射線状ニ倒

壊シ居レリ

七) 城山國民高等学校ハ鐵筋コンクリートニ階建ナルガ一部ハ地階

迄原型ヲ認めサル程度ニ崩壊シ居レリ

ハ城山町川添コンクリート屎(高サ一米厚五〇握)ハ長サ約一〇〇  
米ヲ約三米道路上ニ吹飛サレテ居ル

九松山町ヨリ城山町ヲ通ル鉄筋コンクリート橋ハ西側亀裂  
ヲ生ジ川岸へ約十握位後退シ橋干八四十五度位西側ニ

傾斜ス

十城山國民學校ノ改良便所汲取口ハ約五握位圧空下セラレ且ツ  
厚サ約二握位ノ鑄鉄汲取口蓋ハ破壊サレテ居ル

大日本帝國政府

尚此處ヨリ爆風入りタルモノノ如ク便池ノコンクリートハ吹上  
ゲラレタル形跡アリ

十一城山國民學校周辺ノ樹木ハ最大直径ニ尺位迄根コンギト  
ナツテ居ル

十二城山國民學校々舎ハ鉄竹助コンクリートノ堅牢建築物  
ナルガ下層ヨリモニ階三階ニ於テ破壊箇所多ク且ツ損

傷著シ

(五) 城山国民学校舗装(コンクリート)道路(厚サ約三〇握)ハ路面  
粉碎サレアリ

(六) 大橋町所在「カスタンク」(鉄骨及鉄板ヲ以テ築造セルモノ)ハ地  
上ヨリ一〇程度ノ箇所ヨリ大破シ鉄骨ハ原型ヲ認めザル程  
度ニ屈曲セルモノアリ

三 中心点ヨリ半径一、〇〇〇米ノ圈内

(一) 瓊浦中學校(木造)ハ粉碎セリ原型ヲ認めズ

大日本帝國政府

(二) 水造建民家ハ全ク原型ヲ認めズ

(三) 直径三尺位ノ樹木ハ根本ヨリ根コソギニ倒レ居シリ

(四) 農作物(甘藷水稻等)ハ地上ニ露出セル部分ハ全部燻焦シ  
居ルガ地中ノ部分ハ燻焦シオラス

水稻ハ外辺部及上部ノミ燻焦ス

(五) 鎮西中學校鉄骨助コンクリート三階建ハ地階ヲ忘テ  
曲シ三階ニ於テハ周壁ニ亀裂ヲ生シ屋上ハ一部三階ニ階没シ

(六) 浦上刑務支所ハ木造建粉砕シコンクリート屏ハ倒壊セルモ  
会所前方ノ半地下式掩蓋(土掩蓋)壕ハ内外部トモニ異状  
ヲ認メズ

(七) 山里國民學校運動場周辺ノ横穴式壕(各々簡單ナル爆  
風除ケヲ構築ス)ハ内外トモニ異状ヲ認メズ

四、中心点ヨリ半径一五〇〇米ノ圈内

(一) 竹久保変電所ハ直接爆風ニ當リタリト認メラル、北部鉄  
大日本帝國政府

柱鉄棒ハ南部又ハ西部ニ向ヒ倒壊シ居ルモ鉄筋コンクリート  
建物ハ硝子ノ破損セル外内外共ニ異状ナシ

(二) 製鋼所ノ鉄骨ハ全部南方ニ向ヒ傾斜シ屋根ハ全部吹飛  
バサレ工場北端部鉄骨ハ屈曲シ原型ヲ認メズ

(三) 長崎區大病院ハ窓硝子全部破壊シ煙突一本(コンクリート)  
ハ東南ニ向ケ中部ヨリ約一〇度位傾斜ス

五、中心点ヨリ半径二〇〇〇米ノ圈内

(六) 浦上刑務支所ハ木造建粉砕シコンクリート屏ハ倒壊セルモ  
会所前方ノ半地下式掩蓋(土掩蓋)壕ハ内外部トモニ異状  
ヲ認メズ

(七) 山里國民學校運動場周辺ノ横穴式壕(各々竹間單ナル爆  
風除ケヲ構築ス)ハ内外トモニ異状ヲ認メズ

四、中心点ヨリ半径一、五〇〇米ノ圏内

(一) 竹久保変電所ハ直接爆風ニ當リタリト認メラル、北部鉄  
大日本帝國政府

柱、鉄樺ハ南部又ハ西部ニ向ヒ倒壊シ居ルモ鉄筋コンクリート  
建物ハ硝子ノ破損セル外内外共ニ異状ナシ

(二) 製鋼所ノ鉄骨ハ全部南方ニ向ヒ傾斜シ屋根ハ全部吹飛  
バサレ工場北端部鉄骨ハ屈曲シ原型ヲ認メズ

(三) 長崎巨大病院ハ窓硝子全部破壊シ煙突一本(コンクリート)  
ハ東南ニ向ケ中部ヨリ約一〇度位傾斜ス

五、中心点ヨリ半径二、〇〇〇米ノ圏内

(一) 洞神社境内ハ最大直径三尺位ノ推木ハ根本ヨリ倒レ令神社ハ  
原型ヲ認メザル程度ニ粉碎ス

尚令境内ニ於テ遊戯中ノ十五六ノ男児ニ名(學生服上下着用)  
ハ燒死セル模様

(二) 福佐國民學校鉄骨建雨天体操場ハ直接爆風ヲ受ケタル  
北部ハ著シク屈曲シ南部ハ組立破壊シ南部ニ向ヒ倒壞シ  
居レリ

大日本帝國政府

(三) 同校鉄筋コンクリート建三階ハ窓硝子全部破レ窓枠(鉄)  
ハ内部ニ向ヒ屈曲セル外異状ナシ

(四) 右園内ノ家屋(木造)ニミテ倒壞セザルモノナシ

(五) 横穴式防空壕ハ内外共ニ異状ヲ認メズ

六 中心点ヨリ半径ニ〇〇〇米以上ノ園内

ハ大沈止所在日通支店倉庫西側鉄扉ハ(厚サ約三厘位)ハ中  
央ヨリ屈曲シ約五米内部ニ吹飛ハサレテ居レリ



証右倉庫鉄扉の西方方面に爆風は北方より吹きたるモノト認め  
マラルル處より原因探究ヲ要スモ目下ノ處不明

(一) 長崎港内船舶内部ニ於テ作業中ノ船員ハ無事ナルモ甲板  
上ニ在リタル船員ハ輕傷度ノ火傷ヲ負ヒタリ

(二) 民家ハ中心部ヨリ半径約三〇〇米ノ程度ヨリ外方ニ向ヒ逐次  
破壊力ヲ減少シ居レリ

(三) 半径三〇〇米以上ノ区域ノ民家ハ直接爆風ニ當ラヌモノハ建  
具及瓦ノ破壊ノ程度ニ止リ居レリ

大日本帝國政府

(四) 墓石モ同様ニ認めラレタリ

(五) 山林ノ樹木ハ西彼杵郡山石屋山中服ヨリ女神崎山林ニ至  
ル間ニ於テ内部ニ面セル部分ハ悉ク燻焦シ尙直接爆風  
ニ當ラザル背面ニハ異状ヲ認めズ

### 六. 其他戰訓

(一) 大橋町所在西部瓦斯タンクハ寸程度ヨリ爆風進行方  
面ニ向ヒ倒壊シ居ルガ其ノ陰ニ當ル雜草ハ点々燻焦シ

程度ニ止リ尚疎開糜材、積重ナルモノハ其儘残り居レリ  
③爆風ハ山峽等ヲ通過スル際極メテ強烈ナルモノ、如ク竹久  
保所上方山林杉林約一〇〇本ハ根本ヨリ同一方向ニ押付ケラ  
レタル如キ型ニ倒レ居レリ

④爆風ハ中心点ヨリ半径約十里ニ及ブモノ、如ク西彼杵郡亀  
岳村及脇岬村ニ於テ農耕中爆風圧ヲ感じタル者アリ  
尚今地点ニ於テ窓硝子ノ振動セルモノアリ

#### 大日本帝國政府

⑤熱風ハ部分的ニ相當廣範圍ニ及ブモノ、如ク香燒島造  
船所ニ於テ被働中ノ従業員一名ハ火光ヲ認めタル際顔  
面ニ軽度ノ火傷ヲ負ヒタリ

⑥熱風ハ微粒子ノ燒夷劑ヲ含ムモノ、如ク城山町ノ横穴防  
空壕内ニ在リタル某(年令四五年、男)ハ左<sup>額</sup>面ニ約三十点ノ  
輕微ナル火傷ヲ負ヒタリ

右ハ中心点ヨリ約五〇〇米位ノ箇所ニシテ直接爆風ヲ受

ケタル為防空壕入口ノ四寸角支柱一本中央部ヨリ切斷シ爆  
風除ノ一部損壞ス

(六) 中心点ヨリ約二〇〇〇米ノ箇所ノ山蔭ニ在ル橋穴防空壕内ノ  
ヨリ約二〇米ノ壕内ニ於テ掘空中ノ婦女一名ハ爆風ニヨリ  
壕壁ニ押付ケラレ輕傷ヲ負ヒタル事例アルガ右壕ハ山蔭ノ  
極メテ有利ナル位置ニアルモ斯如キ状態ナルヲ以テ必ズ壕入  
口ニハ爆風除ヲ必要トス

大日本帝國政府

(七) 大橋町所在帝國壓縮瓦斯會社工場長社宅屋内ハ壘ノ間  
壘表及ミレン用木製椅子表面ノ一部ハ輕微ナル燻焦ヲ  
生セリ

十、原子爆彈ノ人体ニ及ボス影響ニ関スル臨床的所見

原子爆彈ノ生物ニ及ボス影響ニ関シテハ現在九州帝大並ニ陸海軍関係者ニ依頼シテ調査研究ニ進メツアルモ九月一日迄ニ判明セルモノトシテ西部軍管区陸軍兵站病院ニ於ケル臨床記録ヲ骨子トスルモノ所見ヲ揚ケルモノナリ尚該病院ハ長崎経済専門學校救護所ニ於テ八月十六日ニ市医師會ヨリ患者一七二名ヲ引継ギ治療ヲ開始シ九月一日迄ニ收容人員三九五名内死亡七二六一名治愈五八名事故

### 大日本帝國政府

退院ニ宕名現在入院患者一五二名ナリ

→ 原子爆彈ノ直接破壊力ニ因ル一般外傷

① 原子爆彈破壊時爆傷及家屋倒塌ニ因ル外傷等一般外傷並ニ

原子爆彈ノ特殊生体破壊力ニ依ル外傷ハ數萬人ニ及ブモノト推定

セラシ其ハ大部分ハ受傷ト同時或ハ短時間ニ死亡シ其ノ詳細ヲ知ル

能ハズ當院ニ於テ診療セル入院並ニ外来患者ハ被傷後一週間以

上経過セル七〇〇名内外ニシテ負傷者ノ一般外傷ノ大多數ハ

硝子片木生片等ノ破生創ニシテ挫創ハ打撲傷骨折等之  
ニ次グ

①創面ハ其ノ治療癒ノ傾向比較的良好ニシテ化膿高度ナシ  
ルモ多数例ニ於テハ受傷ニ週間後原子爆彈ノ放射線ニ  
因ルノ認メラル、全身的影響ヲ表現シ創ハ急速ニ性状悪  
化シ創縁創底ハ紫褐色ノ汚穢苔ヲ衣シ分泌物少ク  
健康肉芽ノ増生困難トナリ急速ニ死ノ轉敗ヲトルニ至ル  
大日本帝國政府

特異ナル表皮剝離程度ノ外傷アリレモ一ニ週間<sup>後</sup>急ニ潰  
瘍化シ前記ノ創ノ性状ヲ呈シ急速ニ死ノ轉敗ヲトルモノ甚  
カラズ 幼兒ニ於テ眼瞼鼻尖等ニ小豆大ノ皮下溢血点アリ一部  
ノモノハ潰瘍化シ將水液性分泌液ヲ滲出シ治療ノ効果ナ

キ例アリ

尚何等原因ヲ認メズ皮膚ニ散在性ニ鳩印大水泡ヲ形成

シ一兩日中ニ死セセルモノ四例アリ

(三)受傷當時ハ破傷風予防注射初行セザラレザリシニ拘ラズ入  
院患者總數 三九五名中破傷風患者四名(内一名死七三名治  
癒)ナリ

### (二)熱傷

當救護所ニ於ケル熱傷ハ收容患者ノ六三%ヲ占ム

第三度程度ノ者最モ多ク約九〇%ニ達ス患者ハ一般ニ顔面蒼  
白体温三七五度前後ニシテ傷面広キ患者ハ食慾不振睡眠

大日本帝國政府

障礙ヲ訴フル者アリ脈博數稍々増加スルモ單張良好ナリ

創面ハ自發痛輕度、出血傾向大ニシテ一般火傷ニ比シ特異

ナル所見ヲ認メズ創面ノ治癒傾向ハ當初比較的良好ナルニ拘

ラス受傷約二週間後ニ至レバ創面広キ患者ハ勿論小範圍

ノ熱傷患者或ハ創面殆んど治癒乾燥セル患者ニ在リテ

モ患者ノ多數(約七八%)ハ其ノ全身症狀漸時惡化シ体

温四〇度内外ニ上昇稽留シ創面ハ汚穢壞疽狀ニ變ル

脈博頻數微弱ナリ呼吸困難ヲ伴ヒ体温上昇後三乃至  
五日ニシテ心臓衰弱ニ依リ死セズ

然レ共少数例ニ於テハ熱傷面が体表表面ノ三分一以上ニ達スル  
患者ニ在リテモ現今表皮形成順調ニシテ治癒ノ傾向アル  
者アリ

尚熱傷患者ニシテ治癒退院セル者一八・三%ナリ以上ノ如  
ク熱傷面狭キ患者或ハ創面殆んど治癒乾燥セル患者  
大日本帝國政府

ノ死亡率大ナル事實等ヨリ考察シ是等ノ死因ハ熱傷  
以外ニ原子爆彈ノ特殊輻射線ニ因ル臓器ノ障害度  
性等ニ因ルモノナラント思惟セラル

(三) 消化器障碍

戦災後消化器障碍多発シ多久ノ下痢、悪心、嘔吐、食慾不振ヲ訴フ、特ニ下痢ヲ伴フ者(當時收容患者一七%)ハ豫後極メテ不良ニシテ一〇〇%死ノ転級ヲトル即チ一日十数行ノ水样緑色便ヲ排泄シ衰急後重粘液血液ヲ認めルモノアリ

理学的ニ腹部ハ陷没シ「ガ」音アリ時ニ軽度ノ腹痛  
大日本帝國政府

圧痛アルモ腸索硬結ヲ触知セズ

下痢患者大部分ハ三八。乃至四〇。度内外ノ發熱ヲ伴ヒ凡ソル治療ニモ拘ラズ下痢出現後三―五日目ニシテ顔貌憔悴眼窩陷没羸瘦日ニ増シ心臓衰弱ノ結果鬼籍ニ入り悪心嘔吐強ク胃液膽汁並ニ蛔蟲ヲ吐出セルモノ數例アリ

吐血ハ認めズ食慾ハ次第ニ減退シ末期ニテハ殆んど缺如



口腔内ニテハ重布答性口内炎、口内潰瘍、小見ニテハ蛾口瘡、  
重布答ヲ散見セリ

四、脳神経症状

ハ小受傷後、一部患者ニ表現セルモノニ後揚、狂暴錯覚アリ、  
第三週間ニ至ルモ尚存ス、又腱反射亢進、頭痛、譫妄、  
語等、高熱、テクシテ既ニ来ルモノアリ、又高熱後之ヲ認め

大日本帝國政府

ルモノアリ

ハ病理解剖所見トシテハ蜘蛛膜下出血ヲ認めタルモノ多クシ  
(爾他臓器、出血性傾向増大随伴ス)

ハ脳神経症状ヲ呈スル者ニハ頭部ニ外傷ヲ受ケタル者亦  
甚カラズ

五、脱毛

脱毛ハ罹災當初ハ全然認めガリシモノ、一週間乃至二週間後

ニ至リ受傷生存者大多数ニ於テ脱毛ヲ来シ頭髮眉毛、睫  
毛、陰毛、等全身ノ毛髮脱落著明ナリ斯ノ如ク患者ニ  
シテ何等原因ノ認めヤモノナクシテ稽留性高熱發生ス  
ルモノ亦尠カラズ但シ高熱發生セバ一〇〇%死ノ転段ヲ取  
ルコト他ノ原子爆彈傷例ト同様ナリ

脱毛ハ原子爆彈輻射線ニ直面セル部分ヨリ始マリ次イ  
テ他ノ部分ニ波及スルモノノ如シ當時被彈地ニ在リシモ  
大日本帝國政府

物蔭等ニ在リテ光線ニ當ラザリキト許ル患者ニシテ脱毛  
ヲ来セルモノアリ

然レドモ脱毛著明ナルヲ拘ラズ現在迄熱疾ナク健全ナル  
者ヲ多数存在スルモ其ノ大部分ハ貧血ヲ伴ヒ顔面蒼白ニ  
シテ豫後ヤカシモ良好ナラザルヲ思ハシム

○ 出血性素因並貧血

受傷後十日前後頃ヨリ大部分患者ハ多分ナリトモ貧血

ヲ認メ高熱ヲ有スル患者大部分ハ出血性傾向大トナリ齒齦  
出血、衄血、口腔内ニ血布答様ノ潰瘍面生シ出血シ有スル止血  
處置ヲ施スモ殆ンド効ナク死ノ轉級ヲトレリ尚全身皮下ニ  
大小溢血斑點ヲ認ムル者多ク又上下肢ニ出血性ノ小水泡ヲ生  
スルモノアリ

赤血球特ニ白血球ノ減少ハ殆ンドスベテノ患者ニ認メラレ極メ

テ高度(赤血球ハ正常ニ分ノ如シ)ナルヲ特徴トス

大日本帝國政府

傷創面ノ次第ニ治癒シツ、アリシ者モ出血性傾向ノ著明

トナルニ及ビテハ創面ノ性状再ビ惡化シ死ノ轉級ヲトルモノ  
多シ

解剖所見ニ於テハ胃腸粘膜ヨリノ点狀出血著明ニレテ

腸内血液ニテ滿サルモノアリ

尿ハ一般ニ黃褐色ニレテ一部血液尿ヲ思ハシムルモノアリ

浮腫ノ顔面下腿等ニ發生セルモノアリ

七、発熱

以上ノ如ク原子爆弾ノ特殊作用ト認めラルル諸症状ニハ熱傷、下痢、脱毛、貧血等ノ如キモノアルモ其ノ何レノ症例ニ於テモ死ノ直前必発スルハ稽留性高熱ナリトス

即チ三四日間微熱ヲ以テ経過シ又ハ微熱ナクシテ急激ニ四十度前後ノ高熱ヲ発シ三四日稽留ノ後速ニ死ニ至ルモノナリ而シテ之ガ発熱ハ本能ニ関シテハ未ダ全ク知見ヲ有

大日本帝國政府

セサルモ混合感染或ハ敗血症性ノモノニ非ザルモノト認め

ラル

八、外来患者ノ状況

外来患者トシテ當院ヲ訪ルル者毎日約一〇〇名位ナルガ其ノ大部分ハ輕症者ニシテ硝子、木片等ニ依リテ破片創、打撲傷ヲ蒙リタル者多キモ既述ノ如キ典型的原子爆弾傷ヲ發シ入院ヲ要スル者日々數例アリテ不幸ナル輕傷ヲ

トルモノ多シ

(九) 解剖所見

屍体解剖ノ所見ニ徴スルニ左ニ型ニ分類スルコトヲ得

以臨床上熱傷ヲ主體トスルモノ

質性膀胱器ノ實質性変性瀉腸・浮腫

(四) 熱傷少キニ拘ラズ急死スルモノ

胃腸粘膜内ニ於ケル高度ノ點状出血、皮膚、漿液膜

大日本帝國政府

面皰ノ蜘蛛膜下出血、齒齦出血

昭和二十年八月九日

長崎縣知事

防空總本部長官  
九州地方總監  
西部軍管區參謀長

防空情報 第一報

一 本日一〇五三敵機三機熊本縣天草方面ヨリ  
北進シ島原半島西部橋湾上空ヲ経テ長崎市  
上空ニ侵入一〇二頃落下今附新型爆彈ニ個ヲ  
大日本帝國政府

投下セリ

二 右爆彈ハ広島市ヲ攻撃セルモノ小型ト認メラレ負傷  
者相當アル見込ナルモ広島ノ被害ニ比較シ被害ノ  
程度極メラ輕微ニシテ死者並ニ家屋ノ倒壊ハ僅少  
ナリ

追而縣廳員幹部ニ死傷ナシ

昭和二十年八月九日

長崎縣知事

防空總本部長官  
九州地方總監  
西部軍管區參謀長  
殿

防空情報 第二報

敵機ハ長崎市ヲ爆撃セル後一三〇頃北高来部  
戸石村北方五軒ノ地突ニ落下今附爆彈三個ヲ投  
下セルガ内一個ハ高度一〇〇〇米ニ於テ炸裂シ二個ハ不  
大日本帝國政府

發ノ後同村山林内ニ落下セリ尚同時刻頃東彼杵  
部川棚町上空ニ於テ更ニ落下今附爆彈二個ヲ  
投下セルモ海中ニ落下セル為被害ナキ模様戸石  
村ノ被害ハ判明セザルモ調査中ナリ

昭和二十年八月九日

長崎縣知事

防空總本部長官  
九州地方總監  
西部軍管區參謀長  
殿

空襲被害状況 第三報

本日、長崎市空襲被害状況十五時現在左記ノ通  
有也

記

大日本帝國政府

十二時五分頃ヨリ市内各所ニ火災發生ニ目下長崎  
駅前大黒町、台場町、五島町、元船町、下筑後町、東  
上町、八千代町、西坂町、錢座町、箱佐町、竹久保町  
外浦町、大村町一帶火災發生延焼中ナリ  
二十五時現在延焼失セル主ナル建物左ノ如シ

長崎縣廳

長崎地方裁判所



長崎地方裁判所検事局

長崎区裁判所及同検事局

長崎日報社

西日本新聞支局

長崎医科大学

三、尚八千代町ヨリ以北浦上一帯、被害ハ相當死傷

者凡模様ニシテ火災發生尚延焼中ニシテ詳細

大日本帝國政府

調査中

右及申(通)報候也

(防空總本部ハ總監府ヨリ報告相煩度)

昭和二十年八月九日

長崎縣知事

防空總本部長官  
九州地方總監  
西部軍管區參謀長  
殿

防空情報 第四報

本日敵ノ投下セル落下傘新型爆彈ハB29ニ機  
ヨリ高度ニテ投下シ長崎市上空ヲ浮流シツツ降下  
シ高度五〇〇米位ニテ炸裂シタルモノト認  
メラルルガハ、  
大日本帝國政府

カハ概ネ左記ノ如リ判断セラル

記

炸裂ノ瞬間強度、白色灰光ヲ發シ灰光アリテ約一  
秒位ニシテ大爆發音ト共ニ強烈裂ナル爆風ト熱風ヲ  
生ズ

爆風ノ威力ハ半径十二軒(三里)以上ニ及び炸裂セル  
直下ト認メラルル地域概ネニ軒平方ノ圈内ニアルホ

造家屋ハ全壊セルモノ極メテ多ク四軒乃至六軒平  
方ノ圏内ニアル家屋ハ屋根瓦窓硝子庇屋内戸障  
子建物ヲ滅茶々ニ破壊飛散セシメ居レリ

即チ炸裂セル直下地矣ト認メラルル錢座町、若里  
町、若川町、坂本町、浜口町、山里町、松山町、橋口町  
ノ浦上一帯ノ概ネニ軒平方ノ地域ハ家屋殆んど全  
壊（倒壊後火災發生殆んど全焼）シ尚四軒乃至六

大日本帝國政府

軒圏内ノ市内全地域ノ家屋ハ屋根瓦窓庇屋  
内建具ヲ破壊飛散（大巾破セルモノ多シ）シタリ  
之ガ為爆彈直下地矣一帯ハ家屋ノ倒壊並ニ爆  
風ニ依ル死傷者及火熱ニ依ル火傷者相當多數  
ニ上ル見込ナリ

尚炸裂ノ際ハ上空ヨリ強ク押し付ケラレル感アリ  
三、又爆風ト共ニ強度ノ熱風ヲ生シ炸裂直下四軒

平方圏内ニハ黄燐様ノ強烈ナル燒夷性アル物質  
飛散シ家屋等ノ可燃物ニ附着シ瞬時ニシテ火災  
ヲ生シ且ツ強度ノ熱風又ハ熱ニ依リ火傷者ヲ發生  
シタリ 即チ炸裂直下地域及其ノ周辺地域タル  
錢座町、糸里町、若川町、坂本町、浜口町、山里町  
松山町、橋口町、竹久俣町、城山町、稻佐町、八千代  
町、大里町、西段町、下筑後町、元船町、  
大日本帝國政府

現在迄殆ンド全燒ニ尚外浦町、大村町、本博多町  
一帯ハ右地域ヨリノ延燒ニ依リ尚延燒中ナリ  
在及申(通)報俟也

(防空總本部ニ總監府ヨリ報告相煩度)

昭和二十年八月九日

長崎縣知事

防空總本部長官  
九州地方總監  
西部軍管區參謀長 殿

空襲被害状況 第五報

本日ニ。時現在利明セル長崎市空襲被害状況  
左記ノ通ニシテ其ノ被害ハ殆ンド全市ニ及ビ特ニ長崎  
駅前以北浦上ノ一帯被害甚大ニシテ敵ノ投下セル新  
大日本帝國政府  
型爆彈ハ二個ト認メラレ既報ノ如キ強烈ナル威力ヲ有

シ広島市ニ於テ使用セルモノト同一爆彈ト思料セラレ  
記

一、死傷者

死傷者ハ約五〇〇〇人位ト認メラルモ目下救護中  
ニシテ正確ナル調査困難ナリ今後尚増加ノ見込死  
傷者ハ何レモ火災ニ依ルモノニアラスシテ爆彈炸裂ニ

依ル爆風彈片火熱ニ依ルモノナリ

二、建築物被害概数

(一) 全壊全焼セルモノ 三、七、九、七戸

(二) 全焼セルモノ 一、一、一、六、四戸

(三) 半壊セルモノ 一、五、〇、〇、〇戸

(四) 一部損壊 八、〇、〇、〇戸

三、被害地域

大日本帝國政府

(一) 全壊全焼セル地域

岩川町、坂本町、松山町、湊口町、山里町、同町橋

口町、大橋町、竹久保町、城山町、目覚町、錢座町、

帯ハ投下爆彈(五〇〇米上空ニテ炸裂)ノ直下地

域ニシテ該爆彈ノ炸裂ニ依リ建築物ハ殆ド全

部全焼ニ強烈ナル火熱ニ依リ全地域灰燼ニ帰シ

死傷者最モ大ナリ

右ノ地域ハ長崎市ノ北部地方ニシテ三菱製鋼、兵  
器等ノ重要工場所在地ナリ

(二) 全焼セル地域

船津町、概島町、五島町、新町、興善町、金屋町、  
引地町、酒屋町、賑町、今、魚町、材木町、本博多町、  
萬歳町、新引地町、宮下町、台場町、大里町、西  
坂町、明舟蔵町、八幡町、一帯ハ爆彈、炸裂ニ  
大日本帝國政府

依リ家屋ハ殆ンド半壊程度ニ破壊セラレ更ニ数  
ヶ所ヨリ火災發生シ各町共殆ンド全焼スルニ至リ  
右ノ地域ハ市ノ中央部ニシテ縣廳裁判所、検事  
局等主要官衙所在地域ナリ

(三) 右地域、外市内全地域、家屋ハ殆ンド半壊又ハ  
一部損壞ニ完全ニ家屋ハ僅少ナリ

四五ナル被害建物

(一) 官公街

長崎縣廳 (本廳)

長崎地方裁判所

同 検事局

長崎区裁判所

同 検事局

長崎駅 浦上駅

熊本專賣局支局

長崎放送局

(二) 重要工場及施設

三菱長崎製鋼所

三菱長崎兵器製作所

三菱茨里所工場

三菱長崎造船幸所工場

大日本帝國政府



三菱浦上部岳工場

右何<sub>レ</sub>モ建物倒壊<sub>シ</sub>機械施設破壊セ<sub>ラレ</sub>被害甚  
大ナリ

九州配電鉄座変電所

同竹久俵変電所

西部瓦斯長崎支店

右何<sub>レ</sub>モ倒壊又ハ全焼<sub>シ</sub>動力及電燈線ノ運電不  
大日本帝國政府

可能トナレリ

(三) 學校

長崎医科大学

同附属医学專門學校

同 藥學專門學校

鎮西中學校

瓊浦中學校

長崎師範學校

長崎商業學校

長崎女子商業學校

錢座國民學校

西坂國民學校

城山國民學校

山里國民學校

大日本帝國政府

(四) 其他

長崎医科大学病院

長崎日報社

西日本新聞支局

五 緊急対策

(一) 市内一般要避難者ハ安全ナル横穴防空壕ニ避難  
難ヲ為サシムルト告ニ既報ノ緊急措置ヲ講ニ尚市

内要残存者ニ對シテハ敵機ニ對シテ警戒ヲ嚴シシ度  
急封策ニ努カセシメツツアリ

(二) 負傷者ノ救助ニ付テハ直チニ被害地区ニ縣警備隊  
特別救護隊各警察署署警察官警察署部員  
警防団員ヲ急派シ之ヲ救出ニ努ムルト共ニ市内  
救護機關ヲ總動員シ尚佐世俾海軍病院諫早  
分院救護部隊其他大村島原方面ヨリ救護班  
大日本帝國政府

ノ應援ヲ受ケ多數負傷者ノ救護ニ努メツツアリ

(三) 浦上方面ニ於ケル重傷者ハ列車ヲ特別運行シ諫

早市ニ搬送シ海軍病院ニ於テ加療セシムルトシ  
十八時迄ニ約一千名ヲ輸送セリ

(四) 罹災者ニ對シテハ非常炊出ヲ実施シ之ヲ救助シ遺

憾ナキヲ期シツツアリ

(五) 災害地ニ於ケル警備ニ付テハ隣接警察署警察

官警防団負ラ應援セシメ治安確保ニ万全ヲ期  
トツツア

右及申(通)報候也

大日本帝國政府

昭和二十年八月十日

長崎縣知事

防空總本部長官  
九州地方總監  
西部軍管區參謀長

空襲被害狀況 第六報

長崎市空襲被害狀況ハ既報ノ如クナルモ本日十  
一時現在、狀況左記ノ通ニ有也

記

大日本帝國政府

一、死傷者概數

死者ハ約三万以上ニ上ル見込ナルモ重輕傷者ヲ合スレ  
ハ約五六万位ト認メラル

二、建築物被害概數

既報(第五報)ノ通ニシテ目下、但正確ナル調査團

難ナリ

三、死傷者、救護其、他

隣接警員暴暴警員暴言防団員ヲ増援セシ  
ムト共ニ長崎要塞長崎地已司令部ニ要請シ  
兵力ノ應援ヲ求メ軍官民全カヲ奉ゲテ負傷者  
救出救護屍佈ノ收容被害現場ノ啓閉清掃  
市内ノ警備治安ノ確保ニ努ムト共ニ四性災者ノ救  
恤屍佈処理等ニ付テハ縣市其他關係機關連  
繋シ當面ノ緊急對策ニ万全ヲ期シツツアリ

大日本帝國政府

四、宣傳單ニ對シテ処置

昨九日爆彈投下ト同時ニ別記ノ如キ宣傳單ヲ投  
下シ居ルヲ以テ極力之ヲ蒐集ニ努ムト共ニ流言  
蜚語防止人心安定ニ既定ノ對策ヲ実施シツツ  
アリ

右及申(通)報候也

(防宣總本部ハ總監府ヲ報告相煩度)

昭和三年八月十日

長崎縣知事

防空總本部長官  
九州地方總監  
西部軍管區參謀長

空襲被害狀況 第七報

敵ノ新型爆彈炸裂ノ中心ハ工場地帯ニシテ市ノ官  
公署及商業ノ中心地帯ニハ初報ノ如ク其ノ被害比  
較的輕微ナリシモ其ノ炸裂ノ中心部ハ工場地帯ニ對シ  
大日本帝國政府

爆彈ノ威力ハ極メテ強大ニシテ三菱製鋼所及兵器製作  
所ハ其ノ全工場殆ンド全滅ノ情況ニシテ當時作業中  
ノ全員殆ンド死セシモノノ如ク更ニ工場周辺ノ民家ハ  
全家倒壊シ屋内ニ在リシ市民ハ之亦殆ンド圧死セシモノ  
ノ如ク死者ハ万ヨリテ數フニ至ルモノト予想セラレ爆彈ノ  
威力ニハ眞ニ輕視ヲ許サザルモノアリ

右及申(通)報候也

(防空總本部ハ總監府ヨリ報告相煩度)

昭和三年八月十日

長崎縣知事

防空總本部長官  
九州地方總監  
西部軍管區參謀長

空襲被害狀況 第七報

敵ノ新型爆彈炸裂ノ中心ハ工場地帯ニシテ市ノ官  
公署及商業ノ中心地帯ニハ初報ノ如ク其ノ被害比  
較的輕微ナリモ其ノ炸裂ノ中心部ニ工場地帯ニ對シ  
大日本帝國政府

爆彈ノ威力ハ極メテ強大ニシテ三菱製鋼所及兵器製作  
所ハ其ノ全工場殆ンド全滅ノ情況ニシテ當時作業中  
ノ全員殆ンド死セシモノノ如ク更ニ工場周辺ノ民家ハ  
全家倒壊シ屋内ニ在リシ市民ハ之亦殆ンド圧死セシモノ  
ノ如ク死者ハ万ヨリテ數フニ至ルモノト予想セラレ爆彈ノ  
威力ニハ眞ニ輕視ヲ許サザルモノアリ

右及申(通)報候也

(防空總本部ハ總監府ヨリ報告相煩度)



昭和二十年八月十四日

長崎縣知事

防空總本部長官  
九州地方總監  
西部軍管區參謀長

空襲被害状況及災害應急對策

第三回

(第八報)

長崎市空襲被害、其後判明之状況左記、通  
ナルガ之カ應急對策、關シテ陸海軍其他關係方  
面ト緊密ニ連絡、係テ負傷者、急速加療死傷、  
大日本帝國政府

發掘收容罹災者、救恤ニ重ク置キ其他動力  
通信施設、復旧被害地道路、清掃人心安定治  
安確保ニ各方面、積極的協力ヲ得テ左記ノ通實施  
中ニ有キ

記

一 死傷者及罹災者概數

(一) 死者

五、七九名

(二) 重傷者

三、九六〇名

(三) 輕傷者

一〇、六五四名

(四) 行衛不明者

三、三七九名

(五) 罹災者

七、八九四五名

右ハ何レモ八月十三日現在ニシテ尚増加ノ見込ナルカ被害者中ニハ一家全滅シ又ハ職場ニ出勤セル主人ノミヲ残シテ家族全員死亡セル家庭等アリテ其ノ被害ハ予想以上ニ大ナルモノアリ

大日本帝國政府

87  
一  
二 建築物被害

(一) 全焼

一一、四九四戸

(二) 全壊

一、一三六戸

(三) 半壊

五、二九一戸

(四) 半焼

一、〇戸

長崎駅江北及對岸福佐町江北ハ全然存在スル家屋ナリ一部損壞ハ全市全家家屋ニ及ブ

三重要工場被害

(一) 三菱兵器製作所 (大橋工場)

地下工場ヲ除キ工場諸施設使用可能ノモノナリ

當分作業開始不可能ノ狀況ニアリ

(1) 建物全壊

(2) 死傷者相當多數ニ見込ニシテ十三日迄ニ判明セ

ル死者一五名 重傷者五五七名ニシテ輕傷者

大日本帝國政府

ハ全従業員ノ入。%約五。。。名ト認メラル

(二) 三菱糸里町工場

(1) 全工場ノ建物全壊燒失ニ機械及諸施設使

用不能ニシテ當分作業開始ノ見込ナシ

(2) 死傷者ハ相當ニ見込ニシテ現在迄判明セル死者

三八名 重輕傷者二八九名ナリ

(三) 三菱長崎製鋼所

(1) 工場建物一部残骸ヲ残シ全壊シ機械及諸座  
設共使用可能ノモノナシ

(2) 現在迄判明セル死者一。二名重軽傷者二。  
名位ト認メラル

(四) 三菱造船所幸町工場

(1) 全工場ノ建物全壊シ諸座設使用可能、モノナリ  
当分作業開始ノ見込ナシ

大日本帝國政府

(五) 三菱造船所浜口町工場

(1) 全工場ノ建物全壊燒失シ座設機械器具使用  
可能ノモノナリ作業開始ノ見込ナシ

(2) 現在迄判明セル死者一一八名重軽傷者一五。  
名位ト認メラル

(六) 三菱造船所大橋工場

(1) 全工場ノ建物全壊シ座設破壊セリ使用

困難ニシテ各分作業開始ノ見込ナシ

(2) 現在迄判明セル死者七七名重軽傷有五〇名位

ト認メラル

四 警備防空其他緊急要員ノ出勤状況

縣及市庁市内各警察消防署員ハ全員出勤シ

其他緊急要員モ災害地ヲ除キ現立員ハ概不出

動度急業務ニ挺身取關シツツアルモ何分被害地

大日本帝國政府

域ハ長崎市ノ三分一程度ニ及ビ死傷者モ亦相当多

數ニ達シ医療救護要員屍体清掃其他志急

復旧要員不足ニラユテ市外ヨリ警察各官警防団

員義勇隊緊急工作隊工場工員部隊其他

陸海軍兵力及海軍作業庁要員ノ応援出勤ヲ

得テ災害地ノ志急業務ニ當ラレノモ等緊急要

員ノ出勤状況ハ

(一) 長崎市内より出動

(1) 警察官吏

五七八名

(内警察部員九六名 警備隊員六一一名)

練習生一三〇名)

(2) 消防官吏

一六〇名

(内練習生五〇名)

(3) 警防団員

四六五名

(4) 医療救護要員

五一一名

(5) 輸送挺身隊員

七八名

大日本帝國政府

(修理挺身隊員ヲ含ム)

(6) 食糧配給団員

一八〇名

(7) 三菱造船工員部隊

一五一一〇名

(同系工場清掃作業ニ従事)

(8) 學校報國隊員

七五名

(二) 市外より応援出動

(1) 警察官吏

八八名

(内佐賀縣より応援五一名 十名 午後六時引揚歸任)

(2) 警防団員

四九七名

(3) 國民義勇隊員

三四六名

(4) 医療救護要員

(由佐賀縣引込後一三名) 四三名

(5) 緊急工作隊員

四〇名

(6) 労報挺身隊員

一〇七名

(7)

川南高等造船学校義勇隊員二一〇名

(外所屬罹災工員家庭清掃多ク三五名出勤)

(三) 陸海軍関係兵力其他応援

(1) 長崎要塞(地団)司令部

陸軍工作隊

一五〇名

大日本帝國政府

同電信隊

一個中隊

同歩兵隊

二個中隊

(八月十三日ヲ以テ一応引揚)

(2) 久為末師管区司令部

久為末陸軍病院救護隊一七七名

(3) 佐世保鎮守府

海軍病院跡早分院

三〇名

針尾警備隊衛生隊

二五〇名

(4) 第三十海軍航空廠

工員部隊

一五〇名

(5) 川棚海軍工廠

工員部隊

二五〇名

五、負傷者、救護

重軽傷者ハ市内横穴壕又ハ周辺山向ニ逃ケ延ビ埃  
大日本帝國政府

モノ多ク爲之カ捜査ニ困難ヲ感シタルモ医療救護班  
ヲ巡回セシメ応急手当ヲ爲シタル上ニ市内十六個所ニ設

ケタル救護所ニ搬送ノ上治療ヲ施シ尙災害当日ヨ

リ臨時列車ヲ運行シテ詭早市、大村市、川棚町、  
時津村、宮村、新木町等、長崎市外ノ救護ノ方

全ク期シツツアルモ未ダ市ノ周辺山林内等ニ避難シタル

負傷者ニシテ收容未完了ノ者アルモノト認めラルルヲ以テ



目下警察官警防団員ヲシテモカ收容ニ努ムルコトアリカ  
負傷者、殆ンド全部カ火傷ニシテ比較的重態ナル  
者多ク死亡率高シ

負傷者、收容治療ノ状況ハ附表ノ通

ナ、屍体清掃

(一) 家屋等、下敷又ハ火災ニ依リ死亡シタル者相当多

数ト認メラレ白骨化シタルモノアリ状態ナルモノモカ急速

大日本帝國政府

收容ニ努ム主トシテ警察官警防団員陸軍部

隊川南高等造船学校学徒其他軍民義勇

隊員等ヲシテモカ發掘收容ニ努ム左ノ通措置ニ

ツツアリ

(1) 屍体、發掘

屍体檢視班ト連絡シ極力モカ發掘ニ努ムルコト

(2) 屍体檢視

發掘班ト共ニ現場ニ至リ發掘現場ニ於テ檢視シ  
出来得ル限り身元ヲ確ムルコト

(3) 屍佈ノ処理

檢視済ノ屍佈ハ左ニ依リ処理スルコト

(1) 身元判明セルモノハ遺族ニ引渡スルコト

(2) 身元不明又ハ引取者ナキ屍佈ハ其ノ場ニ於テ市

役所ニ引渡スルコト

大日本帝國政府

(1) 檢視済屍佈ノ引渡ヲ受ケル市役所側ニ於テ身  
元判明セルモノ引取者ナキ屍佈ハ火葬場又ハ適當  
ナル場所ニ於テ火葬トシ鄭重ニ管理シ身元不詳  
ノ者ハ既定ノ場所ニ仮埋葬ヲ為スコト

(2) 工場関係ハ同系工場タンス菱造船所工員ヲ  
シテ之カ処理ニ當ラレシメ第三十海軍工廠ノ作業

庁部隊ヲ応援セシメ居レリ

七、罹災者ノ救恤

罹災者ノ一部ハ縁故ヲ辿リ市外ニ転出シテ予ハ其ノ大部  
分ハ市内ノ横穴防空壕ニハ焼跡ニ小屋ヲ作りテ生活  
シ居ル者アルヲ以テ市由及隣接地ヨリ非常炊出ヲ爲シ  
テ給食中ニシテ

九日

四五、〇〇〇食

十日

一九五、〇〇〇食

大日本帝國政府

十一日

一一四、〇〇〇食

十二日

一一四、〇〇〇食

十三日

一一六、〇〇〇食

ヲ炊出配給シタルガ時候極長期間衛生設備不  
完全ナル横穴壕ニ生活セシムルコトハ伝染病發生ノ虞  
モアリ(既ニ数人ノ赤痢患者發生ス)速カニ要疎開  
者ヲ市外ニ疎開セシメ要残爲者ノ残爲措置ヲ

講ニ罹災者救恤ノ万全ヲ期スルコトセリ

### 八、応急復旧

應急復旧ニ関シテハ十日及十二日ノ二由固係重要哉  
関、長ヲ集メ緊急対策ノ委員會ヲ開催シテ  
各方面ヨリ出来得ル限リ応援ヲ爲シ

#### (一) 電燈電力施設

陸軍兵力ノ応援ヲ受ケ報告報伝達用サイレン  
大日本帝國政府

吹鳴電力線ノ一部及存在家屋一部ノ電燈施設ハ  
十日午後六時迄ニ復旧十二日迄ニ對岸ヲ除キ電燈  
復旧ニ對岸一帯ハ二三日中ニ電燈出来得ル見込  
ナリ

#### (二) 瓦斯施設

瓦斯施設ハ製造工場瓦斯タンク破壊セル爲メ  
分復旧ノ見込ナシ